

海水温の上昇等による太平洋沿岸域の海洋生態系の 変化への適応 広域アクションプランの 実施・展開状況等について

資料2-2



高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク事務局

公益財団法人黒潮生物研究所

目崎 拓真

背景：有藻性イシサンゴ類の国内分布状況



温帯域
温帯サンゴ群集域
高緯度サンゴ群集域
非サンゴ礁域





サンゴ礁生態系



高緯度サンゴ群集域の生態系

サンゴの多様性

高い

低い

サンゴ生態系の利用

高い

低い

キャッチフレーズ

海の熱帯雨林

?

高緯度サンゴ群集域の課題
サンゴ群集生態系の一般的な認知度が低い
適応アクションが多様

背景：高緯度サンゴ群集域のサンゴ

1930年代 旧帝国大学東北大学のグループによって

杉山（1937）「本邦沿岸産原棲造礁珊瑚に就いて」

本州・四国・九州の太平洋沿岸のサンゴ相が報告

1950-70年代 国定公園や国立公園の設立に伴う調査→海中公園誕生

第一次オニヒトデの大発生

第2回自然環境保全基礎調査

串本海中公園センター

サンゴの観光ブーム？

1980-90年代 サンゴ食巻き貝の大発生

高知県大手の浜のマリーナ建設に伴うサンゴ埋め立て問題

スキューバダイビングの普及

2000年代以降 サンゴの分布北上・第二次オニヒトデ大発生、低水温被害

海水温など気候変動の影響が顕在化（白化・南方系種・分布域拡大）

サンゴ礁生態系保全行動計画

気候変動適応策、自然共生サイト、30by30

専門家の認知は高まるが、一般への普及が課題

高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク立ち上げの経緯と趣旨

令和2～4年度

気候変動適応における広域アクションプラン策定事業



テーマの1つとして
「海水温の上昇等による太平洋沿岸域の海洋生態系の変化への適応」
が取り上げられており、
2つの適応アクションからなる広域アクションプランが策定された。

高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク立ち上げの経緯と趣旨

気候変動適応中国四国広域協議会で策定された適応アクション

適応アクション①

将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し

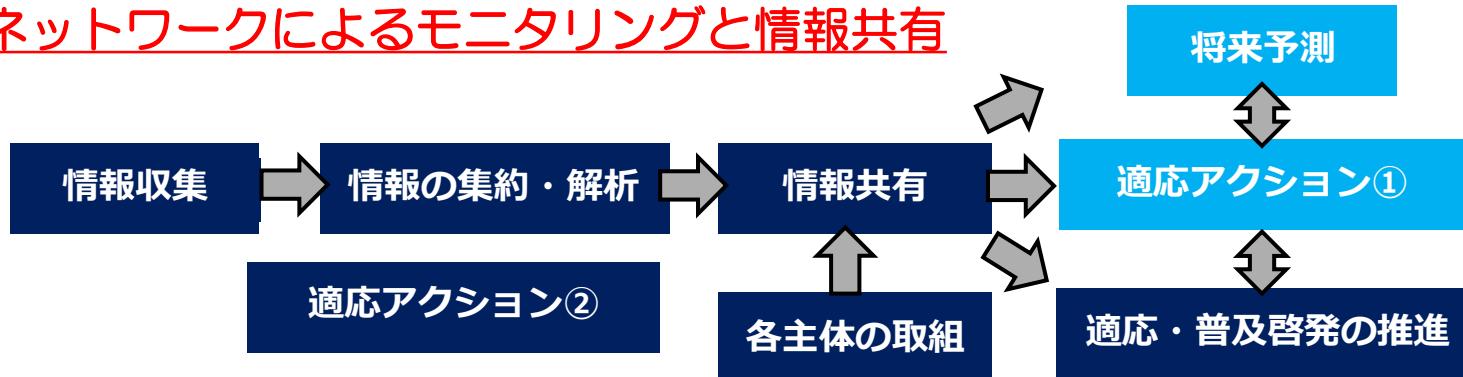
- 将来のサンゴや魚種等の分布を予測することで、いつ・どこで・どのような適応オプションが必要か把握し、将来を見据えた適応を推進
- モニタリング情報や気候変動情報を踏まえて、方針を見直しながら、順忯的に適応を推進

適応アクション②

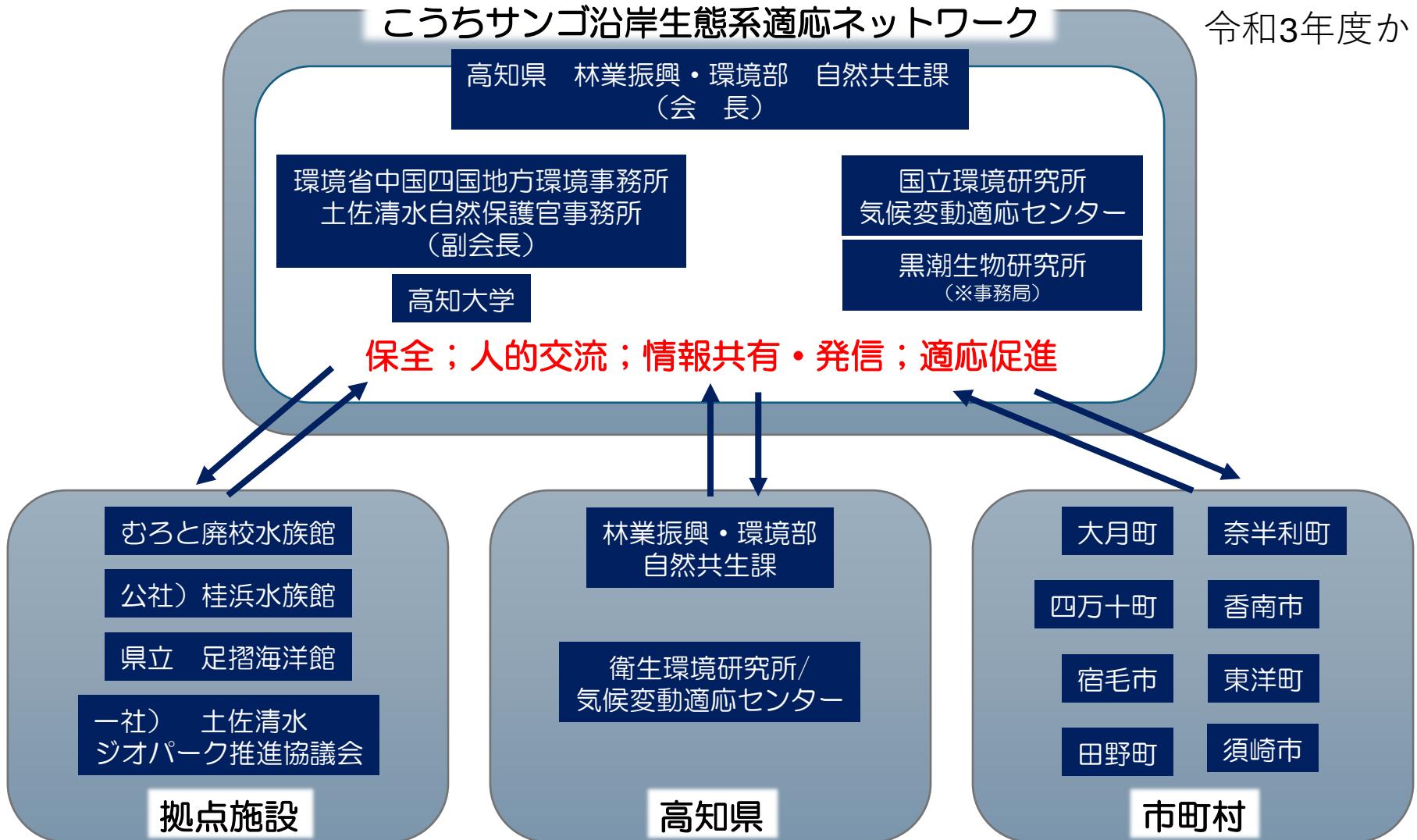
広域ネットワークによるモニタリングと情報共有

- 専門家でなくとも実施できる簡易手法を導入し、裾野を広げたモニタリングにより広く情報を収集
- モニタリング結果や各主体の取組の情報を共有・集約し、適応や情報発信を推進

広域ネットワークによるモニタリングと情報共有

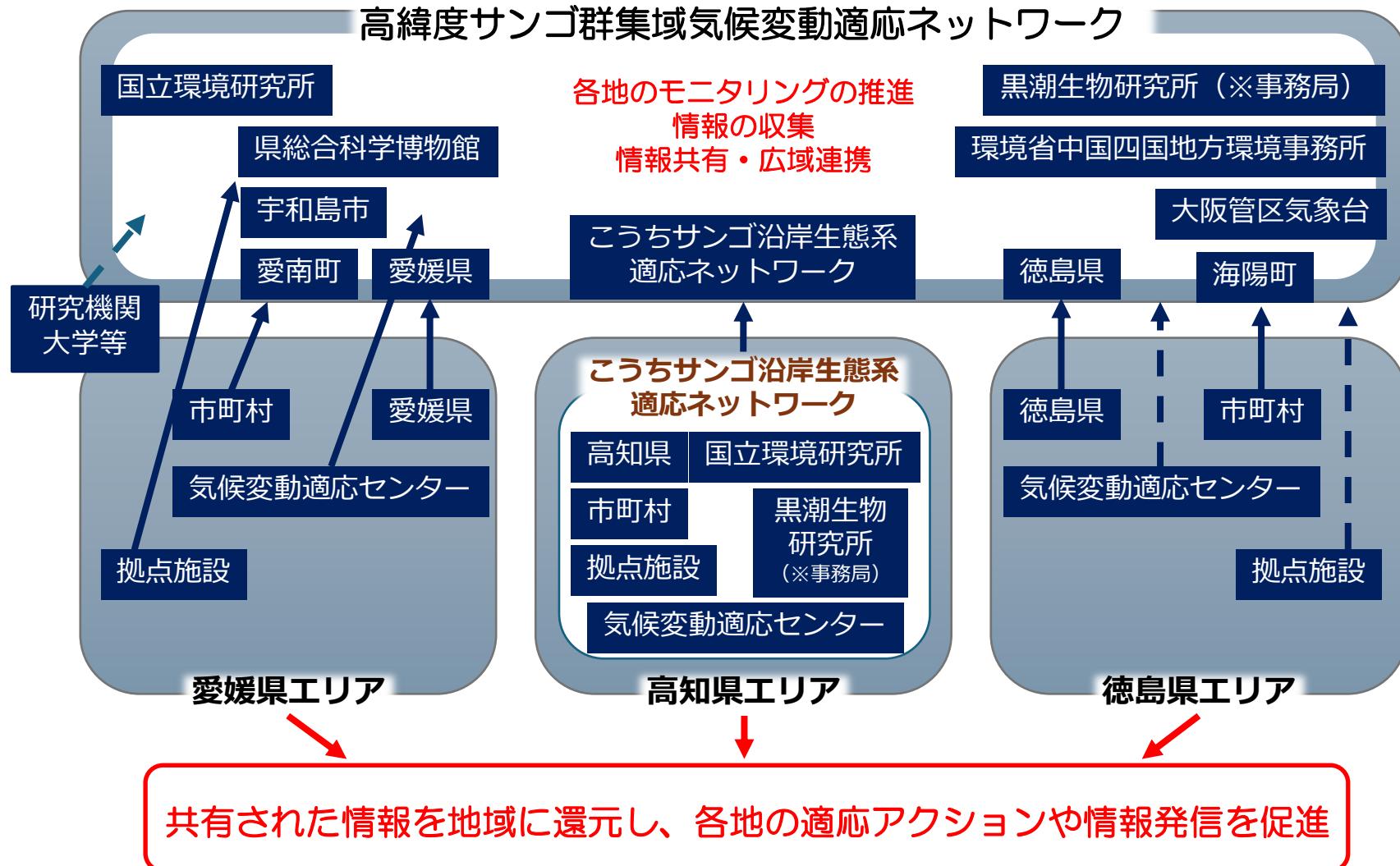


こうちサンゴ沿岸生態系適応ネットワーク組織図



年1回対面の総会とメーリングリストでの情報共有

高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワーク：取組内容と現在の参画団体



将来的には高緯度サンゴ群集域全体にネットワークを広げていきたい

高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワークの取組内容について 年に1回程度開催の総会の場およびメーリングリストを通じて情報の共有

*5年に1回の将来予測の見直し



情報の収集・集約

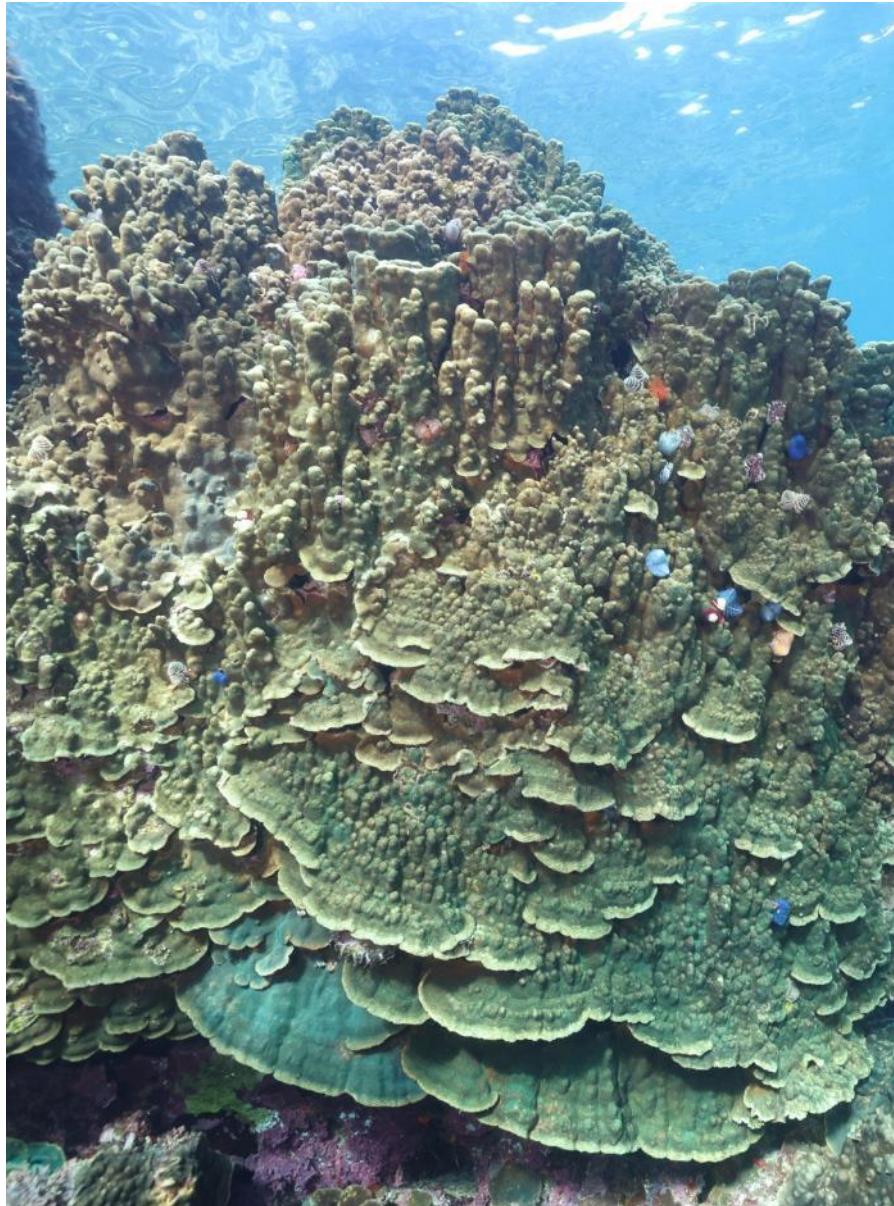


担い手育成を含むモニタリングの推進や保全・利活用



2023	2024	2025	2026	2027	2028
	モニタリング	モニタリング	モニタリング	モニタリング まとめ方法の検討 将来予測方法の検討	モニタリング モニタリングデータ まとめ 将来予測まとめ

高知県東洋町甲浦のサンゴの白化状況（白化率 50 % 瑰死率 40 %）

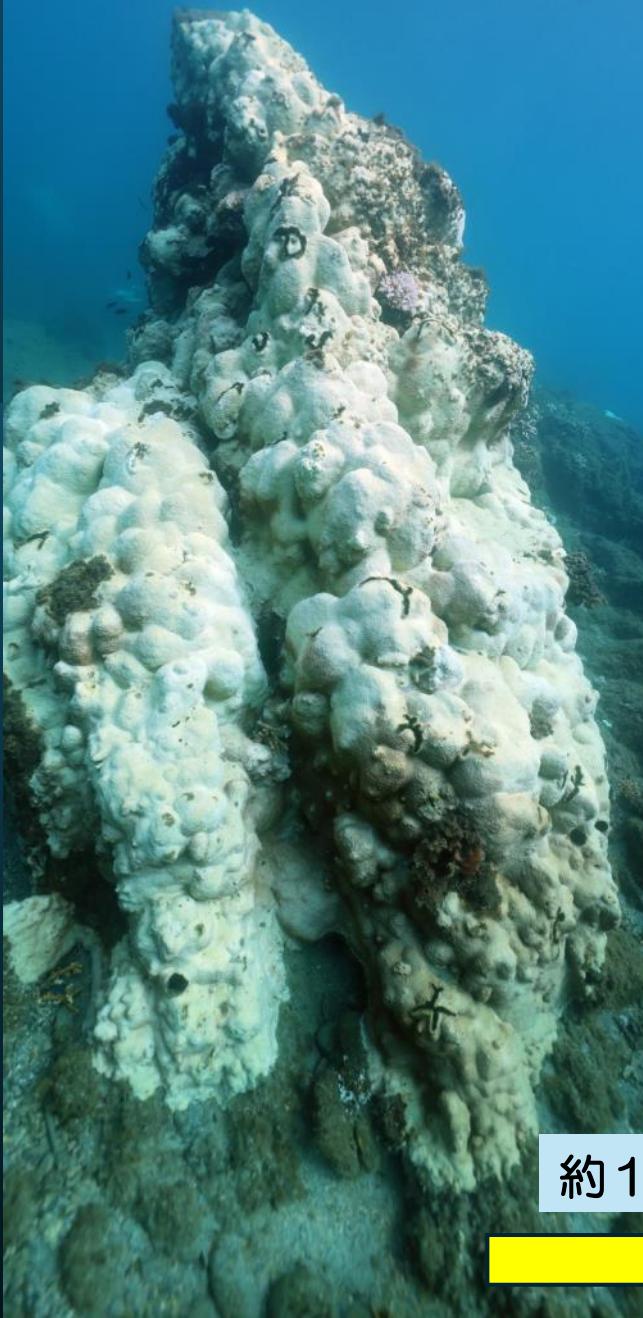


2022年



2024年

2024年10月8日



2024年11月13日



サンゴは白化しても
その影響が弱
かったり、短期間
であったりすると
回復が可能

白化 ≠ 死滅

約1ヶ月



その他の活動：シンポジウムでの啓蒙活動

主催：環境省中国四国地方環境事務所

令和6年度気候変動適応地域づくり推進事業（中国四国地域）

「サンゴの保全・利活用のための広域連携情報共有」セミナー

高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による海の変化を知る



日時：2024年 11月 22日（金） 10:00～12:00（受付9:30）

会場：サンメッセ香川 中会議室（香川県高松市林町2217-1）

定員：50名（会場） ※当日オンライン「1.講演のみ」でライブ配信を行います。

気候変動で世界的に危機に瀕しているサンゴですが、温帯域の暖流に面した暖流に面した沿岸海域にも生息しています。これらは高緯度サンゴ群集と呼ばれ注目されており、その生息状況について、モニタリング調査や情報共有を行い、保全や適応策の検討が行なわれています。香川県においても海水温上昇の影響がみられており、将来の生態系変化について、皆さまにも知りたい方、今後について考えます。

プログラム

1. 講演（1時間30分）

- （1）適応アクション① 将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し
「浅海域の生態系（藻場、サンゴ群集）の変化と将来予測」
国立環境研究所 熊谷 直喜 主任研究員
- （2）適応アクション② 広域ネットワークによるモニタリングと情報共有
「気候変動による四国南太平洋沿岸のサンゴ群集の移り変わり」
（公財）黒潮生物研究所 目崎 拓真 所長
- （3）香川県沿岸域で激減する二枚貝とその要因～アサリを例に～
香川大学 濑戸内圏研究センター 一見 和彦 教授

2. 意見交換（30分）

テーマ「瀬戸内海及び四国南太平洋沿岸における沿岸生態系の変化」

【申込・問合せ】

11/18までに、申込みフォーム（右の二次元コード）からお申込みください。
(URL: <https://ws.formzu.net/dist/S34793481/>)

上記URLにアクセスできない方は、件名を「サンゴセミナー申込」として、
①氏名、②所属・役職、③連絡先（Email, TEL）、④参加方法（会場・オンライン）を
下記事務局までご連絡ください。

本セミナー運営事務受注者：（株）一成 担当：大山・迫田
TEL:079-428-0682 FAX:079-428-2427 E-mail: chushi_tekiou06@issei-eco.com

※個人情報の取扱い

お申込みによって得られた個人情報は、株式会社一成において厳密に管理し、本セミナー開催における業務の目的のみに利用し、法令等に基づく場合を除き、第三者への提供はいたしません。また、利用目的終了後、適切な方法で廃棄いたします。

申込は以下から



サンゴ礁学会シンポジウム 「温帯域サンゴ群集の保全の現状と課題」

2024年

12月1日（日） 9:00～12:30
宮崎市民プラザ オルブライトホール
〒880-0001 宮崎県宮崎市橋通西1丁目1-2

参加費無料・登録不要
(当日参加できます)

主催：一般社団法人 日本サンゴ礁学会
後援：宮崎大学農学部

プログラム

1. 深見裕伸（宮崎大学農学部海洋生物環境学科）「シンポジウムの趣旨説明」
2. 奥村正俊（徳島・海洋自然博物館マリンジャム）「小学生との移植活動から産卵ツアーに繋がるまで」
3. 藤本正明（山口・自然公園指導員）「ニホンアワサンゴを育む陸域の整備」
4. 小村秀蔵（長崎・やつらうde高島）「エコツーリズムを地域活性化に繋げる」
5. 目崎拓真（高知・黒潮生物研究所）「四国サンゴ群集と適応ネットワークの紹介」
6. 福田道喜（宮崎・グリートダイバーズ）「日南海岸のサンゴ保全の取り組みと現状&課題」
7. 高橋勝栄（宮崎・延岡マリンサービス）「延岡市島浦島のサンゴ群集の保全活動」
8. パネルディスカッション



※QRコードから
開催場所をチェック！

日本サンゴ礁学会 第27回 宮崎大会のご案内
2024年11月28日(木)～11月30日(土)
宮崎市民プラザ オルブライトホール/ギャラリー
一般参加可。（※ただし 参加費が必用です。）
詳しいは大会HP (https://www.jcrs.jp/?page_id=2781)
をご覧ください。

モニタリングの担い手育成と情報収集 奈半利の海のセニタリンク体験



奈半利のサンゴや生き物をモニタリングするイベントです！

2024年11月16日（土）（予備日11月17日）
(09:00集合, 14:00解散)

対象：15歳以上（ウェットスーツ等のシュノーケリング道具貸出無料）

定員：先着10名程度
モニタリング調査前にシュノーケリング講習を行います

場所：奈半利町海浜センター

参加申込方法：メールまたは電話

参加費：無料

申込締切：11月13日（水）

内容：学習会、シュノーケリングによるモニタリング調査、まとめ 参加申込用QRコード



※実施の最終判断は11月15日（金）に行います。荒天の場合は学習会と講演会のみ。

主催：公益財団法人黒潮生物研究所、こうちサンゴ沿岸生態系ネットワーク（高知県サンゴ保全育成手事業を活用しています）

協力：一般社団法人なはりの郷

お問い合わせ先：公益財団法人黒潮生物研究所

tel: 0880-62-7077 mail: mail@kuroshio.or.jp

第18回 竜串リーフチェック



竜串湾のサンゴや生き物をモニタリングするイベントです！

2024年11月9日（土）-10日（日）(8:30集合、16:00解散)

対象 10歳以上（ダイビングのライセンスを持っている方）

定員 15名程度

場所 竜串ダイビングセンター、竜串湾

参加申込方法 メールまたは電話

参加費 23,200円（11/9 3ボート、11/10 2ボート）

申込締切 11月6日（水）

日程 11月9日（土） ライン設置、体験リーフチェック（3本）、説明会（学習会）

11月10日（日） リーフチェック（2本）、ログ付け、まとめ

※実施の最終判断は11月8日（金）に行う。荒天の場合は学習会と講演会のみ。



海の宝石ウミウシも見れるかも！

主催 竜串観光振興会、公益財団法人黒潮生物研究所

共催 WWFジャパン

協力 環境省土佐清水市自然保護官事務所、竜串の自然と共生する地域づくり協議会

お問い合わせ 竜串ダイビングセンター

Tel: 0880-85-0790 Mail: tdc2001@sea.plala.or.jp

モニタリングからわかる生物多様性情報

適応策

超黒潮生物図鑑



超黒潮生物図鑑



新着の生物たち



新着の生物たち

キーワード



ヒラメ
Paralichthys olivaceus
2024/03/21 13:22



カゴシマオコゼ
Paraploactis kagoshimensis
2024/03/21 09:57



マガキガイ
Conomurex luhuanus
2024/03/21 09:47

仲間から生物を探す



魚類



ヒトデ



ウミシダ



貝類



ウニ



貝類



海藻



微細藻類



ウミウ

今後の展開と課題

① アクションプランの継続

- ・モニタリング情報収集の継続
- ・将来予測の変更準備

② ネットワークの活性化

- ・新規構成員の募集と既存構成員の満足度の向上

高緯度サンゴ群集生態系の価値を探査し、各地の適応策につなげていきたい

